

『敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！』を読んだことのある10代～50代の男女20名
調査期間	2026年3月10日～2026年3月11日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/teki-kokunokousyakusamaniaisaresugite/

■アンケート項目

Q1:年代と性別を教えてください。

Q2:『敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！』を実際に読んだ感想を教えてください。

Q1:年代と性別を教えてください。

20代男性	0人
20代女性	2人
30代男性	1人
30代女性	1人
40代男性	0人
40代女性	8人
50代男性	7人
50代女性	1人

Q2:『敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！』の感想を教えてください。

<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 1話</p>	<p>結婚自体は良いことだと思います。相手は隣国とはいえ公爵家なわけですし、少なくとも今よりは良い生活を送れるでしょう。しかし、政略結婚の裏にはこんな謀があったなんて。死んでこいと命じられたようなものですし、酷すぎました。一方で、シルヴェスターが気になります。レティシアが媚を売っても、シルヴェスターの心に響いた様子はありません。それどころか、軽蔑されたようにも感じました。こんな状態では暗殺なんてできるはずもないでしょうし、先行きが不安です。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 1話</p>	<p>冒頭のシーンではレティシアに向かって愛情がたっぷりこもったとろけるような微笑みを浮かべていたシルヴェスターですが、その後の2人の初顔合わせの場面ではレティシアに対して超塩対応だったので、彼らの間になにがあってシルヴェスターの態度が変化するのか、この先の展開がとても楽しみにになりました。また、レティシアが王妃と王女に脅されていることを知ったシルヴェスターがどんな反応をするのか、はやく見てみたいと思いました。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 1話</p>	<p>初っ端から血まみれで新妻のご機嫌を伺いにくるあたり、主人公の相手役のシルヴェスターもなかなか一癖ありそうな感じ。そしてそんな彼をたらし込んだり、暗殺しようと考えているレティシアも事情があるとはいえとても酷い。ある意味とても似た者同士な2人なので、くっいたらそれはそれで幸せになれそうな気もしますが、とりあえず初対面は最悪の印象のまま終了したようなので、これからそれをどうひっくり返すのかとても楽しみにしています。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 2話</p>	<p>レティシアの周りは敵が多すぎますね。まず、使用人たちの敵意が異常でした。結婚してしまえば、レティシアは使用人たちにとって上位の存在になるのです。つまり、酷いことをすれば倍返しされることは間違いありません。それぐらいのこと、使用人たちもわかっているはずでしょう。にもかかわらず、嫌がらせをしてしまうのです。相当レティシアのことが憎いのでしょうか。また、結婚式の様子も気になりました。レティシアに憎しみの目を向けている女性がいたことから、使用人たち以外にも敵がいるということが伺えます。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 2話</p>	<p>メイドたちに嫌がらせされるは、屋敷に来てからは何も説明されずに放置されているはで、めちゃくちゃ最悪な状況だなんて思っていたけれど、意外と結婚式あたりから好印象っばいですね。本心からの褒め言葉が効いたんだろうし、政略結婚なのにも関わらず、一生懸命に頑張るレティシアのギャップに驚いたんだろうけれど、この感じだと公爵は結構チョロいかも。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 2話</p>	<p>実の妹を人質に取られたレティシアが、妹のためだけに公爵と結婚する所が潔くてカッコ良いと思いました。公爵に冷たい態度を取られて内心イライラしているのに、無理やり笑顔を作って接する所が面白かったです。公爵に頼まれた本を一晩で全て読み上げるレティシアがすごいと思ったし、ドレス姿が綺麗でうっとりしました。結婚初夜に、公爵の上に跨り誘惑する姿はドキドキしました。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 3話</p>	<p>改めて感じたのは、レティシアの周囲が敵ばかりだということです。集まった人々はレティシアを無視し、ヴァレリーに至っては宣戦布告までしてきました。シルヴェスターを暗殺するどころか、公爵夫人の地位を守るのも一苦労しそうですね。初夜の件には驚かされました。いくらシルヴェスターと関係を持つ必要があったとしても、第三者に監視させるとは思いません。自分たちの情事を見られるなんて、かなり抵抗があったと思います。それでもなお、目的を遂げようとするレティシアの執念には衝撃を受けました。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 3話</p>	<p>結婚式が終わり、様々な参列者から式の感想を述べられるも、シルヴェスターの隣にいるレティシアの事は、いないものかのように扱われているのが見えて悲しくなりました。しかし、レティシアはそれを全く気にせず、むしろ楽だと思っている所がすごいと思いました。シルヴェスターの前にヴァレリーが現れた時はとても可愛くてドキドキしたし、シルヴェスターの幼なじみだと知った時は驚きました。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 3話</p>	<p>シルヴェスターほどのハイスpekなら彼を狙っていた女性がたくさんいるだろうと予想していたので、最初は感じ良く近付いてきたヴァレリーがシルヴェスターがいなくなった途端コロッと態度を豹変させて敵意をむきだしにしてきたのはさほど驚かなかったのですが、それに対してレティシアが戸惑ったり怯んだりせず堂々と応じていて、その逞しさに驚かされましたし、好感を抱きました。</p>

<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 4話</p>	<p>初夜は最後までできなかったとはいえ、それなりの効果があったように感じました。シルヴェスターがレティシアに抱いていたイメージを壊すことになったからです。心の距離も縮まったように思いますし、早く本当の夫婦になって欲しいものだなんて感じました。一方で、使用人の行為は許されるものではありません。幸いシルヴェスターが間に合ってくれましたが、然るべき処罰を下して欲しいです。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 4話</p>	<p>ヒーローが軍人だったり騎士だったりして、その傷だらけの身体をヒロインが厭うことなく受け入れる展開は良く見ますが、ヒロインの方も傷だらけで、「お揃い」だと言いながら身体を見せるという展開は初めて読みました。なんだか切ないような、物悲しいような、グッと胸に迫るものがありました。おかげでシルヴェスターのレティシアに対する感情は好転したようで喜ばしい限りですが、仲良くなってしまうといずれ裏切らなくてはならなくなった時にレティシアの心が壊れてしまいそうで、心配です。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 5話</p>	<p>シルヴェスターの対応は見事でした。いくら倉庫にトラブルがあったとはいえ、普通は扉を壊してまで入ろうとは思わないでしょう。ためらうことなく入口を破壊した判断は素晴らしかったです。ただ、使用人たちの処罰が甘いと感じました。公爵夫人が使用人に襲われたという事実は隠し通さなければなりません。一庶民ではないのですから、公爵夫人らしい考え方を身につけてほしいですね。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 5話</p>	<p>レティシアのピンチにシルヴェスターが駆けつけてくれて、使用人たちの陰謀通りに彼女を疑ったりすることなく助け出してくれたシーンは、とてもカッコよくてときめきました。その一方で、初登場時の印象から気さくで優しいお兄ちゃん枠かと思っていたゼノの動きがなんだか穏やかではなくて、この先彼の裏の顔を知ったレティシアが悲しんだりショックを受ける展開にはならないでほしいなと思いました。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 5話</p>	<p>シルヴェスターが女性に苦手意識を持っているという設定が少し珍しくて印象に残りました。でも、レティシアは他の女性とは違って気が強くてしっかりしているの、だんだん気になっていく感じが伝わってきます。特に、レティシアが使用人に襲われているところをシルヴェスターが助ける場面は、読んでいて「ちゃんと助けに来てくれてよかった」と思いました。普段はあまり感情を出さない感じのキャラなのに、レティシアのこことになると真剣になるところがいいなと思いました。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 6話</p>	<p>レティシアの機転に驚きました。身動きできない状態で襲われたのです。普通なら、泣き叫ぶぐらいのことしかできないのではないのでしょうか。そんな状態で、よくそこまでの機転が利いたものだと感心しました。使用人たちに対しては、ゼノの対応が正解だったと思います。問題を起こした使用人たちをそのまま放置すれば、どんな噂が広まるかわかりません。もともとレティシアに対して強い悪意を持っているのですから。人の口に戸は立てられぬなんて言葉もありますし、ゼノの行動は称賛に値すると感じました。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 6話</p>	<p>魔力が身体を蝕む病気にルーチェが罹患しているというくだり以外、これまでは特に魔法の存在がストーリーに関わってくることはありませんでしたが、レティシアが窮地を脱するために魔法を使ったことにより、魔法使いは少数派で、かつ身分の高い人間が多いことが判明しました。レティシアが巧みに魔法を使えたことに対してシルヴェスターがちょっと意外そうにしていたので、もしかしたらレティシアは魔法が使える者の中でも突出した才能の持ち主で、そのせいで母国の王妃と王女から目の敵にされていたのかもしれないかもしれません。だとしたら、レティシアの魔法は実は物語の根幹を成す重大な要素で、彼女をとりまく苦しい状況を打破する一助になるのではないかと思います。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 6話</p>	<p>シルヴェスターは当初レティシアのことを頭の中がお花畑な王女様だと考えているような感じでしたが、彼女のウイレット王国での扱いを知り、襲われながらも冷静に立ち回れる賢さを持ち魔法まで使えることを知った今、「毎晩一緒に寝てほしい」という彼女の望みを素直に受け止めるのか、それともその裏にあるものを探ろうとするのか、彼の心情が知りたいと思いました。また、レティシアがシルヴェスターに共寝を望んだと知ったゼノがどんな反応をするのかも気になるので、はやく続きが読みたいです。</p>
<p>敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！</p>	<p>レティシアの提案はなかなか見事でした。毎晩話を重ねることで、自然と二人の距離は縮まっていくでしょう。今回は夜の関係にまで発展しませんでした。希望の光が見えてきたように思えました。一方で残念に感じたのは、レティシアがシルヴェスターに取り入ろうとしている点です。そ</p>

7話	ういった態度は、シルヴェスターにとって好ましくないのではないのでしょうか。父にすぎるように媚びていた母の姿と重なってしまいますから。作り笑いをせず、もっと自然に接した方が良いのではないかと感じました。
敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 7話	本作の原作を担当していらっしゃる琴子さんはヤンデレヒーローに定評のある方なので、女性嫌いだっただシルヴェスターがレティシアにだけは心を開いて、次第に執着心を深めていく感じかなと最初は予想していたのですが、7話でのゼノの思い詰めたような表情を見て、このお話のヤンデレ枠は完全にゼノだなと感じました。ずっとレティシアのそばにいたゼノなら彼女の優しい性格も熟知しているはずで、シルヴェスターをいざ害そうとしても出来ない可能性があることを十分に理解していると思われるので、自分以外の男に絆されてしまうくらいなら諸共に破滅してやろうくらいは考えそうで怖いです。それともシルヴェスターの方をさっさと始末する方向へ舵を切るのか、とにかくゼノの行動が読めないなので、ハラハラします。
敵国の公爵様に愛されすぎて暗殺できません！ 7話	これまでのやり取りから、シルヴェスターに対しては変にぶりっ子して甘えてみせるよりも、素を出して接したほうが好感度が上がりそうだとレティシアくらい賢ければ察してそうなのに、相変わらずお花畑演技を続けている姿からはシルヴェスターとの仲を深める気はない彼女の意思が伝わってきて、切なくなりました。ゼノに対しても計算高く暗殺を遂行する女を演じているように見えますし、周囲に誰一人として心を許せる相手がいないレティシアがかわいそうで、思わず労ってあげたくなりました。

漫画全巻の部屋

by (株)グリュックス